

新編水滸畫傳

二編

貳

875  
12





去讀來讀而轉  
起百感

竹永末三

雅又人

新編水滸画傳卷之拾二

東武

高井蘭山翁

上三編

○梁山泊小て林冲落草

斯説林冲ハカと横待居るに彼大漢子已にを大に罵て淫穢汝  
我の李と疾持来て还んやとて刀を揮て撃てくる林冲原来た心同く  
待設するて由一玄の答も及む乃ち虎の鬚と登るに眼と開く急小  
刀とぶてこれと迎へ二人勢と奮めて相闘ひ左小高れ右小解れ右に  
撃む左小避互に武術の秘蘊と見して戦ひ已に三十余合に及れた  
雌雄いもご分さざりしふ二人の豪傑お共に大小怒り虎の勇と龍の勢  
ひと震て又闘十餘合に及で精神益盛んなり多る所に忽ち山を  
所より數十人の勢と大小呼ていなり夫人の豪傑闘と休らまじ

必も誤てお傷ふと云らん林冲是と云て多小園子の外小礮山を  
尋ぐ是と云るに王倫杜遷宋万及び佖の小城とも悉く山と云り舟と  
浮べ河と渡り馳來ぬ王倫先二人の豪傑小向て云るに王下等友人の  
働き等宋の賢ふにめづり先互に怒と休て息と云必も誤て友虎の鬪  
一虎と傷ふと云るに於て友人刀と収めて双方に立寄る王倫又林  
冲と指さして彼大漢子小對ていもこれ我為る盟と約する義兄  
牙林冲と云るの云らん汝は又いも人ぞ也取づくの姓名と云る彼  
漢子云我は是三代将門の後又侯揚令公が孫姓は揚名は志と云者  
なり頃日ハ流落しては関西の辺小徘徊也我前年曾て武奉の及等  
直に殿司制使の友となりぬを比帝万葉山の上に花石と布山の  
風系と索のりんとて宋とに制使の友然て十人と太湖の辺小遊さん

多く花石と收て京に運びよるべき由りしを宋ら勅命と奉て已  
太湖の辺小遊さん夥き花石と船小積て船十艘の舟日時に太湖と  
漕出し垂小黄河の辺小遊し船に大風吹に起て十艘の舟悉く風波小  
顛倒し已小危く見へしが幸ひ小恙有りて宋時運物に於て十艘の  
舟の内宋ら舟の儀の船に後れ一二里を引りしを急に追つらんや  
幸に又ハ風濤大小起り竟に我舟砥礁の上小吹揚忽ち船底破れしを  
花石悉く水中に沈み僅に命の助り這く存小上りしとも舟小  
破入がく方小徘徊して罪と逃れ難と避けてまに布に幸ひにい  
ふに赦免と慕りしを急にかしの小旗と求め已小今東京小歸らん  
とて此処にあり悲涙目下等に行李と奪れぬ取らん行李と疾く還  
らんや王倫是と云て乃問て云汝は是書面獸揚志小わらん楊志が

いたく別れ之書面歎、素が緯號しては五倫がいそ。足下果して書面歎  
 揚判使してわく先山陣小伴て一箇の清酒と幼め度男ふん揚志がいそ。  
 足下素ごとと緒初り給ひ只彼行李と還一々是却て酒と賜らんより。  
 我前年東京に在りし時足下武奉の及等一  
 方ひて洛中奉て足下の武奉と僕嘆一なる由素も是時足下の雷  
 名と承知ぬ。今日幸ひひたふそ。對面と遂に不豈敢て空しく取一  
 まねせんや先山陣小八ひて。誓時疲と慰めぬ少しも別意これなき  
 方必と疑ひひたふそ。揚志は時稗すと終に遂に五倫不随て河と  
 あり岩と上つて山陣小ありたり。比時朱貴も亦山陣に來て共不聚義  
 廳小入て会合に在の方小五倫杜遷。宋弟朱貴次第に依て比時の  
 校椅と一連小排て。存小揚志。そ次小林冲二の校椅各坐已に定り

五倫急小小絨ホに命し。美酒佳殺と使て酒宴と設し。山河の  
 味もと尋して。飲砂と借し。酒已に教盃巡りし。五倫乃ち林冲と指  
 して。揚志小對して云る。我前も粗告し。今人ハ東京八十万禁  
 軍教院豹子既林冲之只彼高右尉賢者と如く小人と覺し。遂に  
 謀と設て彼と吾實の罪小陥り。滄州小流し。刻又頃日人と滄州  
 以野林冲と殺さんと尋りし由。林冲却て高右尉の方人せ。衆人  
 小総て三人と害し。滄州城と逃出せず。山陣小在て。新小素小屬も  
 足下も亦向に不意の難也。海への舟となり。今幸ひ小勅免と  
 義り。帝京に回りのふとあれも。唯恐く。高右尉今中。高右尉と當り。  
 不仁不た。とけひ。賢人義士と如く。豈敢て足下と容ひ。り。んや。那くの  
 東京に歸ると。休む。我は山陣小在と。原し。素と。共に強盜の首と



林冲投名状と  
求めて青面獸  
楊志と  
闘ふ



なり多くの友人ホウ不義の奴と棄ひ死。大秤と以て金銀を分ち。大碗と  
以て酒肉と喫し均く安楽を催し。日ごとく豪傑を倣へ。なんや楊志泰  
て曰。小大既飲の懇情感激。小務すと。とも。素が親族。東京不在。な  
素向小身を遣れし時。獨彼等が身の上及び多く難儀と。象。り。然共  
を。後。考。て。一。礼。と。も。叙。り。さ。る。ぬ。昔。ひ。け。度。速。に。東。京。小。返。て。親。類。を。も。と。も。  
一。礼。と。謝。し。り。え。ん。と。思。ひ。ぬ。山。陣。小。還。苗。な。り。と。は。唯。ぞ。く。ハ。素。が。弟。李。と  
還。し。あ。り。ん。や。り。還。し。あ。り。ん。ハ。手。を。虚。や。て。あ。り。も。是。非。取。素。す。と。王。倫  
お。笑。て。曰。是。下。山。陣。に。あ。る。と。と。嬌。ひ。あ。り。ん。ハ。素。何。ぞ。強。小。止。ん。や。心。と  
寛。げ。ら。膏。ハ。一。宿。区。明。子。且。奔。足。一。ぬ。ハ。楊。志。是。と。嘆。て。大。小。悦。び。乃。ち  
心。と。安。ん。し。酒。盃。闌。小。あ。り。し。久。く。遂。小。酒。宴。罷。て。各。一。る。小。入。り。歌。り。り。  
翌。日。早。天。王。備。又。酒。宴。と。設。け。楊。志。と。諸。互。に。献。酬。し。共。小。別。れ。と

惜りり。楊志ハ酒と砂と教區の後粹し。おまんより。乃。王。備。被。り  
李。と。死。お。し。楊。志。に。還。し。め。遂。に。楊。志。と。送。り。山。陣。の。真。面。の。門。ま。で  
出。り。楊。志。源。く。礼。謝。し。法。の。既。飲。も。一。礼。と。述。て。別。れ。乃。ち。小。城。ら  
一。美。人。小。啓。れ。蘇。小。り。り。以。て。大。物。小。出。又。小。城。ホ。に。粹。し。別。れ。遂。に。東  
京。と。還。り。酒。り。り。王。倫。ハ。ひ。り。り。林。冲。と。山。陣。に。苗。て。第。二。の。校。椅。小。坐。せ  
し。め。素。を。第。二。の。校。椅。小。坐。せ。む。日。と。肇。と。て。梁。山。泊。小。又。人。の。既  
飲。酒。小。山。塞。と。も。り。り。民。舎。と。歩。友。部。と。却。し。威。風。正。方。小。養。ひ。り。り  
○ 汴。京。城。ま。で。楊。志。刀。と。賣。  
備。も。ま。面。默。楊。志。は。大。物。を。送。り。の。小。城。ホ。小。粹。並。に。東。京。と。志。し  
急。ぎ。り。る。程。に。不。日。に。東。京。小。あ。り。て。城。下。小。入。乃。ち。客。店。と。借。て。旅。者。し。  
數。日。還。苗。し。て。樞。密。院。小。納。給。と。あ。り。再。び。殿。司。府。小。於。て。制。使。友。や

かえと思ひ許多の金銀と奪ひ取し。漸く申文書とて。殿帥府小入りき。太尉に見せり。以申文書といふ。凡殿帥府小入て友とる者。先。樞密院より以申文書。友者に与へ。殿帥府の太尉に見せむ。これ。於て太尉。又と者と點視て。友小任ずると任せざる。殿帥府小於て。定まる。以時言太尉ハ楊志。望上せ。申文書とて。大少怒てい。楊志。汝ハ筒に十人の判使の内に加へ。花石と收め。斬り。九人の判使ハ。子。花石と運漕。回て納め。るに。汝独の。花石と失ひ。急。の罪と。避ん。乃。方と。花石。見。今。朝廷と。控。す。小。わ。也。昔。以。今。赦免と。最。莫。太。の。造。化。一。て。自。ら。汝。是。也。小。何。を。妾。に。奪。ひ。殿。帥。府。の。判。使。と。做。ん。と。欲。す。や。汝。縦。ひ。赦。宥。と。欲。す。も。乃。希。の。罪。名。い。ま。と。淨。く。我。實。と。肯。て。汝。と。殿。帥。府。小。用。ん。や。と。て。

申文書と把て自らこれと扯破て。階の下小去。遂に方志小命とて。楊志と門外へ。逃。出。し。ぬ。楊志大に恥辱と。奪。ひ。車。に。旅。宿。に。飯。て。只。鬱。々。と。怒。り。八。向。に。梁。山。泊。ふ。て。王。偏。身。三。我。と。誅。め。多。休。が。用。ひ。ま。し。り。れ。ば。山。陣。小。あ。れ。と。云。り。最。好。之。汝。れ。も。我。代。之。潔。白。の。姓。名。と。今。文。汚。さん。と。思。ひ。怒。く。何。を。再。び。復。友。し。て。先。祖。の。名。と。も。汚。く。せ。ん。と。欲。す。に。怒。り。多。太。尉。小。遮。ら。れ。判。社。辱。と。奪。ひ。ぬ。多。太。尉。何。を。か。れ。と。毒。心。で。人。と。好。意。や。我。今。許。多。の。金。銀。と。箱。結。に。用。垂。し。て。を。退。討。小。せ。り。ぬ。汝。れ。が。奪。ひ。先。祖。より。お。傳。ふ。の。宝。劍。一。挺。尚。い。ま。と。身。と。離。さ。す。不。持。ま。れ。ば。以。前。之。れ。と。活。代。さ。し。旅。費。と。求。め。何。を。へ。り。と。も。走。り。去。て。奪。ひ。命。と。多。身。と。安。ん。だ。ん。の。と。そ。自。宝。劍。と。携。へ。市。に。出。乃。ち。賣。標。と。拂。て。以。彼。に。徘徊。し。遂。に。馬。行。街。の。内。小。來。て。凡。二。時。を。り。

買主と俟たれども。若て一人も同者ありし。直に街と繞り出。天漢州  
橋熱鬧なる所に來て。暫く買主と求りて。立住て居りしに。急小左右  
の人。悉く一度に發立て。夫大虫あるに。早く逃よと。呼つて。各に方八面  
不遑散り。揚志これと。呼て。怪か。か。城下に孰れ。の。大漢子。大小輝碎して。擅に双  
らんと。方と。顧る。所に。遙向ふ。一人の大漢子。大小輝碎して。擅に双  
子と。歩搖。傍を。人の。群。を。拂て。弛。揚志。び者。と。見る。ふ  
面。民の。悉く。と。雲の。と。威風。の。猛。虎。の。と。び。者。は。系。東。系  
第一の。後。者。没。毛。大。虫。牛。二。と。云。て。考。小。東。系。の。街。小。出。遊。ひ。動。不。動  
人。と。嚇。し。争。ひ。と。他。一。已。に。友。府。中。も。致。度。出。り。れ。ども。友。府。不。於。て。も  
又。禁。ず。と。能。は。ら。へ。に。北。に。東。系。の。人。民。は。牛。二。と。云。つ。て。小。皆。先。と  
争。ひ。て。逃。る。び。時。牛。二。揚。志。が。赤。に。起。り。子。と。伸。し。彼。宝。劍。と。扱。て

揚志に。同。て。い。く。汝。が。は。劍。ハ。幾。く。の。價。小。街。や。揚。志。答。て。是。ハ。先。祖  
より。お。傳。の。宝。劍。也。實。に。三。千。貫。も。賣。り。さ。ん。牛。二。叱。て。い。く。汝。が。は  
劍。い。く。名。也。ん。か。く。許。多。の。價。と。需。る。や。我。只。三。百。錢。小。賣。る。刀。も  
神。牛。肉。と。切。豆腐。と。切。汝。が。は。劍。も。此。等。の。物。と。切。の。と。ん。ん。に。何。と。切  
宝。劍。と。い。ふ。や。揚。志。が。い。く。我。は。劍。ハ。街。の。店。小。て。買。ふ。白。鉄。の。刀。と。は。等。し  
う。ん。是。が。れ。實。に。名。也。の。宝。劍。汝。必。ず。尋。考。の。刀。と。一。列。に。な。る。て。勿。れ。  
牛。二。が。い。く。汝。再。三。宝。劍。と。云。は。は。劍。必。び。猪。肉。豆腐。木。の。外。又。能。物。と  
割。や。揚。志。が。い。く。我。は。劍。ハ。第一。の。鋼。鐵。と。切。て。刃。の。齒。捲。ら。ず。第。二  
も。能。吹。毛。と。切。第。三。も。人。と。斬。て。刃。の。上。に。血。と。滌。ず。牛。二。が。云。  
已。小。か。く。の。と。ん。汝。教。て。鋼。鐵。と。切。や。揚。志。が。云。何。ぞ。切。ざ。ん。汝。切。せ  
と。ん。鋼。鐵。と。持。來。れ。牛。二。乃。ち。貨。包。の。肉。より。二十。余。錢。と。賣。し。別



州橋の標杆の上に垂きて揚志小向ていさ。汝りけは後を切らば。我  
 三子費と云く賞をべし。時法の人民近くへ前されども。盡く遠の亦  
 りの丸圍て見物に。揚志が云。是らの鋼鉄を切ん小。何の疑きとのん  
 いざ一切割て見せんと。於て劔を抜て。只一著著とると見らるが。彼等  
 たる二十竹りの鋼鉄。忽ち二つふるの切にあり。も参差するは見物の  
 法人。一度に吐と養小なり。牛二怒て云。汝ホ法人何と根小稱とや。  
 再び一怒なりとも。揚志と云。れと罵て。又揚志小對して云。汝第二  
 吹毛と切ると云らるが。汝又是と試んや。揚志が云。最易に。とて。自ら  
 數十根の鋼鉄を抜て。刃の齒の上と厚く。一吹吹られ。鋼鉄忽ち  
 切て粉くと散ふり。見物見物。牛二叱られんと。顔も。ま  
 一般に怒と養して。養へ。益人加つて。見物見物。多りなり。牛二又

云。第三一人と斬て。刃の上に血と滌すと云らる。我さふ。これと真とせ。は  
 け劔果して。宝劔小價なく。汝子く人を斬て。我小見せ。揚志が云。太平の  
 世に何ぞ妄小人と斬ら。汝は。汝は。人の代小物と引られ。我  
 是と斬て。証とせん。牛二云。汝向に。人と斬とせ。とて。狗と斬と云。り。は  
 今更に。狗と斬んと云。如何とや。揚志が云。我今狗と云。人の代り。小是と  
 斬んと欲に。汝劔を買ん。速に。立去。再三我を。侮り。何の。理  
 とや。牛二いさ。汝が。劔。宝劔。小物。あり。敢て。我首を。斬んや。揚志が云  
 我汝と。仇も。寛も。ま。汝と。斬て。何の。益。ありん。牛二。是と。切て。勿。ち。揚志  
 と。揪て。いさ。我。實に。汝が。宝劔。を買ん。揚志。が。いさ。汝。買。速に。先。價。と。持  
 来れ。牛二。いさ。我。の。原。來。一。文。の。價。も。ま。揚志。が。云。汝。價。を。く。ん。む。我。と  
 揪て。何。と。云。や。牛二。云。我。只。汝。が。劔。と。求。む。揚志。が。云。我。堅。く。汝。小。ふ



事んとする由系一時の怒ふ事一牛二と殺し近隣於て証見とて其共  
 比而に河公の比はけ時近隣らも於て皆の下に於て楊志が乃に始終詳ふ術へ  
 たり府尹がいも己ふかのてく人我先楊志に入門の梅と免すべしと乃ち友  
 太小命と楊志に頸枷を加へ牢の用小考りり。入門の梅と云ふ罪人初て友府小  
 来り時を是非と論せしめて先拷歩制法なりけし時府尹又幾むくの下友と近  
 隣ホ小跟て彼牛二を殺され。天漢州橋の辺に於て具小檢詰とあさめられん  
 法の隣近ホハ己小下友と引て天漢州橋の辺小来て具小始終と告て  
 檢臉と遂を遂に一匹の供状と修へて。友府尹に差上りり。こに於て府  
 尹れと発落るふ人。人と殺すへを大罪を命と遣はすん。あべうげとて  
 遂に楊志と死罪ふと定めり。か定て楊志牢中に在るに。法の役人せ  
 彼近く小首と削らるべきとて。各大小憐と何とも楊志が命とゆんと。男ふ

折前。法の近隣ホ多く彼後と上下の役人小籠。乃ち府尹小訴て  
 云々は彼牛二ハ東京第一の役者にて。初もまは街に出て。人敲店と壞  
 ひせり友府と蔑如うて農商と犯し掠めぬ。後小は度楊志彼と殺  
 りんを東京の街小一害と除さひ。刑りハ法人の訴状と準へて。楊志が  
 死罪と宥免さ。法人の收び最莫ちるん。府尹作て。ていまご一交  
 せざるに。上下の役人ホ盡く皆よろしく攬成と云られ。府尹も助人と思ひ  
 たり。とも。牛二が方に原告の者りや出来るん。と私に人と馳て。初聲と窺りめ  
 たり。如小牛二ハ東京第一の役者にて。初もまは街に出て。人敲店と壞  
 考小彼が怒とる。及と怒とる。や。ひ。前小及んで友府小出て。た。た。の。と。と。作る  
 者もより。府尹判楊志が命とゆ。とて。ま。白。子。速。死。罪。と。改。め。て。  
 流罪小定。如二十棒と携ち。面に金印と刺し。遂小二人の下友と押監と

之 死

新編水滸傳卷之十二



水滸水

新編水滸傳卷之十二



楊志  
没毛  
大虫  
牛二を  
殺す

して小糸大右府おど流し。二人の下友張龍趙虎已小命を奉て揚  
 志と頭柳と入即日官府と出ておに天漢州檣の辺にむりし。彼近隣  
 等盡く皆一連に生迎へ揚志及び二人の下友を待て酒肆小むり。別酒肉  
 と役けて別れの盃と傳り。酒已に數盃巡りれば徳の近隣ら。銀子  
 若干お出し。二人の下友張龍趙虎小命を奉て揚志及び二人の豪傑  
 ろしてけり。幸ひに牛二の暴者と殺し。市民の爲に一害を除けぬ。故に  
 懐びせま。揚志と憐むと尋ねる。支公も亦揚志が豪傑なりと  
 憐む。て中宜しく介抱を加へ。二人の下友がいも。我もも久しく揚志が  
 英名を及びぬ。後徳の友人の憑と交すも。か。も。凍器の玄色必  
 乃中のしは憂へおとる。近隣の族又若干の銀とを出し。控  
 ま。後費の助小と。揚志にけり。れば。揚志はこれと射して。涙を

含む。さう。徳の近隣ら。已に盃を収めて。揚志及び二人の下友小別れ  
 け方に散て。回り。揚志は下友と。酒店を出て。再び前日の旅宿小  
 回て。行李おと。收拾り。遂に。日に。辞し。別れ。下友小伴れ。小糸と。居んで。  
 を發。そ。夜。小糸。城より。三十里。外に。旅宿。を。取。て。歇。り。翌。日。未  
 明。小糸。二人。又。着。と。出。る。後。と。急。ぎ。さ。り。び。の。ど。く。す。り。と。凡。十。日。あ。り。て。遂。小  
 小糸の。婿。小糸。と。壺。小糸。下。入。そ。夜。に。旅。宿。を。借。て。疲。れ。と。歇。り。翌。日。  
 小糸。大。右。府。小糸。と。ぬ。び。大。右。府。の。系。東。軍。を。多。く。守。友。梁。中。書。  
 玄。推。と。當。て。勢。ひ。は。方。小。表。ひ。り。び。日。二。人。の。下。友。張。龍。趙。虎。已。小。揚。志。  
 と。引。て。大。右。府。小糸。乃。ち。東。京。より。の。公文。を。梁。中。書。に。呈。し。ら。れ。た。  
 梁。中。書。是。と。扱。き。見。て。乃。ち。揚。志。小。同。て。玄。我。弟。年。東。京。小。時。時。着。て  
 汝。が。と。と。及。べ。り。何。故。今。日。人。命。を。害。し。ら。る。や。揚。志。答。で。云。ら。小。糸。向。小

花石を失ひて。久しく流浪の身と沈落し。方く徘徊する所に。び  
 多ひ敬免と慕りし。何れを又旧職制使の友と做んと欲し。彼は難用不  
 僅の行なる金銀も悉く用ひ尽し。漸申文書と乞はれ。乃乞と携て。帥  
 府不出の地とも。不幸として。官を尉小容られず。己に艱難小迫り。先征  
 より。修り。室剣と乞半。乞と賣拂んと思ひし。知小。忽牛二小棄ひ  
 死ねんとせし。一時の怒り小。遂に牛二を殺し。梁中書これを  
 夢て大ふ怒び。即坐に頸枷と除し。遂小返文と修へて二人の下友  
 小。与へし。二人乃ち大名府と出て。再び東京をぬる。楊志ハ  
 乃。目より。梁中書小事へて。朔夕。慇懃小勉。然。梁中書甚ど  
 これと。怒。始より。楊志と擡。副牌の職と授んと欲し。乃れども。  
 法人の伏す。きと。擡て。死し。月と。遂り。る。一日。梁中書大

小の法。小號令とトして。明日。東郭門の教場に於て。武藝を演習  
 せ。さ。る。ふ。く。利。意。と。あ。り。て。悉く。皆。教場に。お。集。れ。と。一。觸。と。也。し  
 たり。夜。梁中書。又。楊志と。呼。び。て。密に。云。る。へ。我。等。を。汝。と。奉。て。副  
 牌の職と命ぜんと思へども。未だ汝が武藝の虚实と知らざる。其  
 沙汰と黙止せし。楊志が。未。向。に。武。奉。の。友。等。を。い。じ。已。小。帥。府  
 の。制。使。の。職。と。授。り。十八。般。の。武。藝。初。少。より。学。び。習。ひ。て。頗。る。是。と。熟  
 せり。若。相。公。未。と。以。て。副。牌。の。職。小。擡。奉。り。恰。も。雲。と。捨。て。日。と。う。ら。が  
 め。く。之。未。果。して。立。身。地。遂。る。と。わ。ぶ。敢。て。心。力。と。竭。して。大。恩。と。報  
 せ。ん。梁中書。大。小。悦。び。別。又。一。飲。の。盛。甲。と。出。して。これ。と。楊。志。小  
 与。へ。て。い。ち。明日。東。郭。門。の。教。場。小。於。て。法。小。武。藝。を。演。習。し。む  
 べ。さ。る。汝。必。ず。力。と。盡。し。彼。亦。一。比。試。と。な。り。て。雄。と。死。れ。後。は。別。汝。小

副牌の職と授くべし。揚志傳んで恩と謝し。を救ひ公切に歎む。歌々りり翌日梁中書又人と軍中小弛て来意を傳へり。比時二月の中旬なれど風和くは日暖くふくして天色に明朗なり。梁中書已に早操罷りければ装束兼美小個へてふふ赤系揚志及び許多の衆人と従へて已に東郭門に身しる大小の法物悉く出迎ふ。梁中書刑演衣履の恭まてるとり。已に廳上小登り中央小急坐ましなれど左右に列を猛りし。指揮使圍練使正制使統領使才於校尉副牌軍等於て百餘人威風堂々。義氣凜々として。次第と礼を坐と占ぬ。友田正於卷の恭まて。友人の於監立並ぶ。一人ハ李天王李成一人ハ開大刀開達び。一人ハ方丈不尚の勇あり。今軍を掌つて。名を遠近に振り。

將卷の上より。風小翻して旌旗多く登連ね。將卷の下より。天不響せて。鈴鼓類りに敲るは。以時將卷の上より。一の紅旗と搖動し。乃れも法の衣於右器械と持て。教場の方より。躍り出。傳へて。梁中書の號令とお伺ふ。梁中書乃ち令として。副牌周謹と招きられむ。周謹ると飛せし。跑あり。廳前より。出てより。跳下。恭しく地上小跪て。令と承。梁中書曰。周謹汝先速に。衣履と演すべし。周謹賣んで令と承り。刑演と承て。乃ち小系並に教場の内小弛入る。東向小弛。南小弛。徐と卷て。閃々として。使ひしる。法人一人。夜と變と揚て。卷ふり。梁中書又方丈小令して。東京の流人揚志と傳へ。乃れ。揚志子速。廳前より。出て。跪く。梁中書乃ち揚志小對して。云。我亦年東京に在り。汝がとて。汝及び。汝ハ系教師府の判使とも。色を

者すれは定めて武藝と若すらん。即今兗州に方に起て。人々も皆この時をば。汝今周備と武藝の言下と比へ。あつて周謹に揚とめ。不速職と換けて。早く引ひん。楊志と云。相公の言命。豈敢て違はひんや。不速不速と云。今小従して一場較量つべし。梁中書。大小腕ひ。遂は左右に命じ。一足牽出を別これと揚志小車へ。系しめ。らんを揚志再三恩と謝し。乃ち廳の後に来て。昨夜梁中書より揚り。殊の盛甲と着し。手には長槍と持替。めは弓矢と帯し。遂はるに系て。廳の後より跑出。と。先槍と比ぶ。肉小繞入り。乃れは。梁中書乃ち命を下し。と。あつて先槍と比ぶ。と。命とり。は。時周備揚志と見て。大に怒て云。揚志。賊死軍。汝敢て我と武藝と比べん。ハ。さ。の。意。外。之。揚志。え。と。言。て。は。く。大。小。慧。り。汝。誇。云。と。云。ん。より。あ。く。来。り。一。槍。と。添。ん。や。と。あ。つ。已。小。と。躍。せ。槍。と。極。て。近。く。と。進。り。り。

○書面歎北京して武と闘ふ

楊志周謹ハ互にると躍せ。槍と極り。已に近く進んで。お闘んとせし。如小。云。る。於。監。受。速。大。小。呼。て。い。く。揚志周備。安りに。戦ふ。こ。と。な。れ。暫くると。勅。て。お。待。べ。と。て。座。に。廳。上。に。登。て。梁中書。小。見。て。云。ら。ん。揚志周謹が武藝と較つ。と。云。下。ハ。見。ず。以。ども。鋒。ハ。り。と。無。情。の。あ。れ。ど。唯。よ。り。と。款。と。殺。し。滅。と。斬。る。べ。し。今日一家の比。武。小。真。劍。と。用。ひ。ぬ。と。怒。ら。る。傷。換。あ。つ。て。極。死。時。ハ。身。と。残。ひ。幸。死。時。を。別。命。を。害。す。べ。し。是。れ。軍。事。に。於。て。大。小。利。な。り。然。る。ハ。あ。人。が。槍。の。鋒。刃。と。除。き。



名毡と引てゑんと包之乃ち毡の上と石灰に蘸し。又名馬さ袍と  
 着させて。餘と交へし。餘の中らぬ必也石灰の痕ありて白点と遺す。此  
 乃ち白點多き者と。輸に定めて較量ふとせば。畢竟傷損なく。軍中  
 不於ても亦大に利ありん。と。中書の意いふ。梁中書是を以て。  
 人傳んで。遂に願の後。小引て。餘と抜去。毡と引て。あれを  
 蘊。其上と石灰。小蘸し。名馬さ袍と着し。馬びるに。亦あて。一人  
 齊し。教場の因に。跑来。揚志先ると。勒へて。周謹とるに。引小  
 皮の盛と戴き。又。引の甲と着し。腰小紅の縵と繫び。足小  
 の靴と穿。餘と捲て。と。確せ。車小揚志と。引て。刺し。揚志も  
 引く。と。飛せ。餘と。卷て。お。迎へ。友人。陳希に。ありて。一。束。一。往。勇と。勵し。

力を競ひ。鞍上の人。人と。残ひ。坐下の。る。は。ると。闘ふ。友人。餘と。交ると。  
 已に。六十。符。合に。及び。し。周。偉。が。袍。の上。は。班。々。と。して。又。六十。の。白  
 点と。負へ。揚志は。只。肩。牌。に。一。の。白。點。あり。梁。中。書。これ。を見て。大  
 小。悦び。忙し。し。令。と。下し。闘。と。息。を。引。周。偉。と。廳。上。に。呼。び。て。い。さ。く。  
 希。友。汝。を。引。副。牌。の。職。と。授。け。し。と。も。已。今。揚。志。小。贏。と。取。れ  
 一。今。般。揚。志。を。以。て。汝。が。職。小。伐。し。し。軍。を。と。掌。さ。せん。に。汝  
 必。ず。これ。を。寛。く。と。ま。ん。ば。時。に。監。李。成。を。以。て。梁。中。書。に。引。り。  
 周。偉。ハ。餘。法。未。熟。し。と。い。ふ。も。弓。馬。練。熟。せ。り。今。周。偉。が。職  
 と。削。て。揚。志。を。擡。挙。せ。し。忍。し。し。法。人。を。抜。き。す。一。引。く。ハ。又。彼。等  
 二人。小。弓。箭。の。比。試。を。ま。し。め。多。梁。中。書。是。を。以。て。引。り。と。引。し。即  
 友人。小。命。し。汝。友人。馬。び。弓。矢。の。字。下。と。較。ぶ。一。友人。傳。て。命。を

東郷の教場  
周謹揚志  
武術の  
較量



形り各陰を控て弓箭と持二人等しく走り飛せ教場の内に砲入  
 ら法入これを見て未だ弓箭の落下に動かねども天晴大別の雷走らるや  
 一度小咄と称ふるに時揚志は梁中書に向つて上小札と詔乃ち  
 身を屈て云らるる弓箭はもや飛りのりてゆむを中する所必ず傷くこと  
 多し一射くハ傷換赦免の命令と兼て互にを意多く比試中と一梁  
 中書武士の比試ふ何ぞ換傷あること怖るべき能ひ射殺すとも  
 一云き句の雨痛きま揚志竟に命と承てるを回一教場の南中  
 に砲中より李成又防牌と二面出させ友人小輿へて去らるハ汝友人弓  
 箭の比試ふ必ず防牌をくつて不可せん各ハ防牌を用て箭と遮り  
 身を護つてよろしく落下を分つべし友人防牌を掲げてこれと臂の上  
 に掛り罵いざ先一箭法んとく已小馬を飛せてたたに立分る揚志ま

周謹に向て汝先小我と三箭射よ我も又後に汝ふ三箭と返  
 べし周謹是を笑て只一箭に射透えりものと思ひ急に弓と振り  
 箭を搭へ走り小揚志と争て跑る揚志亦来周謹が武藝を看  
 破りられおしも怯る及るく防牌は披きると飛せしむと争  
 んで跑巡る周謹壯しく後に随て追ひ来り波月のごとく捜聚箭  
 こゝろを待て兵と放つに時揚志弦音の響を笑て閃りと外へ走り  
 砲の内に飛しこれこそ箭忽らるを射て遙の方に飛去る周謹  
 第一の矢の中らるるにまど慌て再び第二の矢と走りお搭へ暫し  
 熬て兵と放てば揚志又二の矢の弦音を笑て身を扭りて唯一掃ひ  
 に掃ひしむる矢勿れち最叢の裏に落ちる周謹又二の矢の外れる  
 と見て倍周章る如に揚志走りて教場の盡稍に及びふ揚志

急に韁繩を勒へ再び廳前を廻りて馳回る。周謹、是を見て驚く。身を  
回し、飛びてく。砲あり。友人ある。勇ひと振り勇とを。其面八方を繞つて。  
息も續ず。砲く。六。八の馬蹄ハ蓋を翻し。鉞と撒きがごとく。以時  
周謹、第三矢と歩搭へ。平生の力と盡して。宛も望月の如くに。拍後  
馬を迫くとをめて。揚志が背脊を辱で。兵と放られば。揚志又弦の  
響をばて。身が翻し。猿臂を伸し。飛ぶ。矢と中に。掌の肉に  
緊と押り。遂なる。飛せ。廳前に馳あり。乃其箭と遙場外に投棄り。  
梁中書。是を見て大に悦び。乃令と下し。揚志も又周謹と射す。以  
以時。乃後の上に又。旗と揺動し。然らば。周謹、急に弓箭と。捐防牌  
と。さし。遮り。を。躍せ。西南を。辱て。近出。揚志、これを見て。目し。  
と。飛して。追あり。已に。弓。同を。く。り。う。揚志、いま。箭も。盡へ。が。終

虚さ弓弦。遠くと引。緊弦。音高く。響せらる。周謹、はる上。小弦。音と。ば。急  
脅。防牌。と。遮り。り。不に。揚志、は。め。箭も。た。空。拽し。然らば。周  
謹が。防牌。後。に。空と。接へ。り。周謹、心中。に。怒。ひ。り。ハ。揚志、は。只。強  
の。若。候。よ。て。矢と。射。り。ハ。若。せ。ら。る。也。急。かく。空。弓と。拽。り。り。よ。る。若  
第二の。箭も。亦。空。弓と。撞。バ。我。是と。罵。つて。竟。ら。我。贏。小。せん。の。と。と。  
忙し。く。く。る。に。策。う。つて。已に。西南。の。盡。稍。ふ。あり。再び。韁繩。と。扣。へ。て。誘  
回し。直ちに。廳前。を。辱。ん。ど。跑。來。る。揚志、以。時。急。に。弓。箭。と。搭。へ。已。不。放  
し。ん。と。し。る。が。忽。然。と。し。ん。公。中。思。急。と。め。ぐ。り。我。是。以。矢。を。放。し。ハ。  
忍。く。ハ。周謹。が。一。命。と。亡。び。て。我。仇。と。承。承。仇。も。なく。恨。も。な。し。  
我。の。今。一。箭。に。射。殺。さ。る。却。て。大。に。若。事。ま。り。し。只。よ。ろ。く。彼。が  
死。す。べ。く。さ。る。如。と。撰。り。射。中。ん。と。て。乃。ち。る。と。近。く。と。進。め。る。能。拽。て

乞ど放ちられぬを矢の如くまゝに周謹が肩脾に觸ると中れば周謹首胸の  
 耐はす。より下へ倒れに落ちたり。徳の士卒これを見て急に教場  
 の内に跳入て。遂に周謹と投けて。卷の背後小銃より梁中書を  
 見て大小感。制軍正司の友小命とて揚志と周謹に代り。副  
 脾の職と授けし。揚志は喜氣洋くう。謙で思と謝。乃ち其  
 職と務りり。初る所に堦の左の方より。大漢子一人躍り出て雷の  
 落るも。わづらひ。揚志は汝を交ふことなれ。我汝と三百合と  
 闘て。武藝の至極と極むべし。揚志は人を思ふに。汝の七尺ありし  
 して。面赤く耳をく肩闊く。方より。腮の迎ふ。まゝ一部の長鬚ありて。  
 威風凛々として。相貌堂々として。人々を驚かす。尋常の習と見たり。  
 被勇士既に梁中書が弟とて。敬で云らる。周謹は。今病後して。

精神の衰へ。今復せしめて。強て揚志に輸ひ。ひさし。系不又と  
 乞ども。敢くは揚志と武術の至極と比すべし。系不又と乞の  
 破綻あり。バ。揚志と答へて。周謹の職小誓。しめぬらん。偕並。従へ  
 系不又と乞の。代り。めぬふも。誓て。秋毫も寛る。辱む。く。相  
 公比試と許す。久。梁中書これとるに。これ別大名府の正牌  
 軍索超より。け人。為に。經系。急姓。あるに。めぬ。人。皆。是。と。名。けて。  
 急先鋒。索超と。呼り。け。時。李成。も。目。く。を。出。て。ゆ。ら。る。揚。志。の  
 け。敵。司。割。侵。の。友。と。誓。する。者。な。れ。バ。必。定。武。藝。の。遊。人。な。ら。ん。  
 忍。く。は。周。謹。が。敵。手。と。さ。る。免。り。今。索。超。と。比。試。せ。く。め  
 久。大。漢。子。と。對。ひ。あ。る。べ。し。敢。く。は。相。公。比。試。を。武。藝。と。比。べ。さ。せ  
 久。梁。中。書。先。と。呼。び。て。必。中。不。惹。ひ。ら。る。我。の。只。揚。志。と。擡。奉。ん。と

欲しく斯の討ひ裸せし丸。凡人いまだ公服を脱ぎぬ。尚法念を  
ぞむ。今揚志又より索超も雄たげ。法人必だ公服して死す  
とも然るまのや。孫揚志小揚取しめ。正脾の職を授け  
よ。ゆとて乃ち揚志を呼て回て云。汝索超と比法せんとい。如何  
揚志が云。相公の号命。素堂これと吾や。梁中書がい。汝  
果して比法せんと思ひ。先願後にて。装束を更ぬ。再び堅く披掛  
べし。揚志命を兼て。已に應後小越。さるれを梁中書一疋の良馬  
を牽出させて。これと借。揚志に歸しめて云。汝比法に當りて。宜く  
公を拜ひ。急と速て較量せよ。必だ索超と。等余の輩と。一列小見を  
とる。今揚志が首して。命を承り。已に裝束を調へて。一入猛く出立  
たり。さて又李成は索超小命とい。汝これ周濔が。為るは。武藝の

師をれ。何と今揚志に。揚めて周濔が。恥とも書り。又汝が。英意も  
揚べき。必ず哀憐て。揚志に輸る。しる。れ。恙。第一。少も負る。て。う。ふ。  
揚志は。う。う。ば。大名府の。軍友と。欺と。侮る。と。る。べし。我。幸ひ。陣中。に。  
研。慣。る。残。る。美。系。列。る。盛。甲。あり。我。是。と。汝。小。借。べ。さ。る。是。と。披。掛  
て。力。と。奮。ひ。心。と。煮。して。揚。と。け。よ。汝。必。び。さ。る。う。銳。氣。を。折。く。と  
さ。れ。索。超。強。く。是。と。謝。し。別。嚴。小。披。掛。り。既。あ。り。て。梁。中。書。ハ  
塔。の。前。に。出。て。比。合。場。と。申。さ。れ。た。た。の。親。隨。等。張。の。校。椅。と  
殺。す。と。ま。り。梁。中。書。と。往。て。坐。と。さ。る。う。む。ま。も。さ。ら。た。右。に。は。前。の  
と。く。條。言。の。軍。友。等。列。と。云。し。く。並。居。ら。る。は。賊。小。嚴。重。なる。形。勢。之  
以。新。目。録。の。次。金。聖。歎。七。十。回。本。李。卓。吾。評。閱。施。耐。庵。履。貫。中。が。百  
回。本。及。び。本。烟。長。橋。冠。山。子。の。譯。通。俗。な。も。の。次。の。拾。三。卷。目。の。初。小。書。

急先鋒東郭中功狀争ふ。其面獸北条中。故小本文と前後の差ありて讀に窮ふ。今前後の目錄を更て本文と符合せむ。

多しゆの旨此  
中めりあり

新編水滸画傳卷拾二

彫工朝倉八右衛門

青面豹ト

九敵龍女道

不詳なる将軍

源の水道

